

青年海外協力隊員レポート

セネガル・レポート②

山崎こずえ（横田）

国が変われば医療も変わる？ ～セネガル医療事情レポート～

みなさん、こんにちは。前回のセネガルレポートではセネガルという国について大まかな紹介をさせていただきました。

さて、今回は私の活動（看護師）からセネガルでの医療事情を紹介していきたいと思えます。まずセネガルの病院についてです。主に国立、州立、県立、市立・郡立と私立というのが規模的にも大きいものです。ここには医師が常駐しています。次に大きな村などにある診療所と呼ばれるものがあり、そこには看護師が常駐しています。それ以下は診療小屋と呼ばれるところに、研修を受けただけで免許を持たない無資格看護師、無資格助産師といった人たちが働いています。残念ながらセネガルでは医療者を養成する

教育機関も十分ではないため、国家資格を持った医療者の数は常に不足しているのです。そこで、これらをカバーするために病院などの医療機関で数か月間研修を積んだだけの無資格看護師・助産師という人たちが実際にはセネガルの地域医療を担っているのです。その仕事内容を見ても、日本とは大きく変わります。

おおざっぱに言うと、日本の医師の仕事は看護師が、看護師のする仕事は患者の家族が行います。医師の数が少ないため、そのほとんどは都市部や大きな病院に勤め、管理職として働くことが多いので、実際の患者の診察、薬の処方、処置などは看護師が行っています。そして、入院した場合の患者の世話や観察といった日本という看護師の仕事は

患者の家族の仕事となります。では、実際にセネガルで見た「出産」を紹介しましょう。もちろん、自宅出産も多いのですが、最近では診療所や病院といった医療施設で出産する場合も増えてきています。

そこで、ある地方の診療所での出産風景をお話ししましょう。①妊婦さんは陣痛が始まると来院し、分娩室で待機します。この間陣痛で苦しむ妊婦さんも多いのですが、医療者が観察するわけでもなく、出産直前の破水まで待ちます。②破水すると、妊婦さんは水平な分娩台上に上り、駆け付けた無資格助産師が出産の介助を行います。③臍の緒を縛り切断了ら、新生児を流し台に連れて行き、いきなり水道水で手荒に洗います。④その後、口の中をガーゼでふき取り、臍の緒を処置して体重を計ったら、新生児を布にくるんで終了。⑤出産後、お母さんは歩いて病室まで行き、そのベッドで休みます。問題のない出産の場合、当日または翌日に退院して自宅に帰ります。

日本の医療現場の常識から考えると「やっつてはいけな行為」というものが多くあります。まずは清潔に関するこ

と。こうした医療行為や処置にあたっては、きちんと消毒・滅菌されたものを使うというのが当たり前ですが、水で洗っただけの器具、他の人に使った器具をそのまま使うなど……ここでは清潔という概念が徹底されていません。また生まれたての赤ちゃんを冷たい水道水（不潔な水です）で洗う：日本なら赤ちゃんの体温を保つという意味でも絶対にありえない行為です。最初はこのような行為に、ただただ驚いていました。が、それでも元気に回復し



出産直後の赤ちゃん
診療所を出産した直後の赤ちゃん



村の子どもたちの麻疹ワクチン接種
時々ユニセフや各国からの援助により全国一斉に無料で子どもたちにワクチン接種を提供しています。

退院していく人たちを見てみると「あれ？これでもいいのかなあ？」と錯覚してしまうほどでした。日本人が神経質で過保護なのか？セネガル人の生命力が強いのか？複雑な心境でした。次に医療制度について：日本は「国民皆保険制度」といって医療機関を利用する時には何らかの保険制度が適応されますが、セネガルには一部の公務員を除いて医療保険というものはありません。ですから、医療機関を利用したり薬を買った